



平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果 池田小

教科に関する調査の平均正答率は全国とほぼ同じになっています

1 はじめに

「全国学力・学習状況調査」は、全国の小学6年生と中学3年生を対象として、平成30年4月17日（火）に実施され、本校の6年生も参加しました。

その結果が7月末に学校に届きました。その後、職員で本校の分析を行いましたので、その概要を保護者や地域の皆様にお知らせします。

2 調査の概要

本調査は、「教科に関する調査」と「学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査」で構成されています。



①教科に関する調査

まず、国語と算数では、「A問題」と「B問題」に分かれて出題されます。大まかに説明すれば「A問題」は基礎的基本的な内容。「B問題」は文章問題などが出題され、応用力などを試す問題になっています。また、本年度は3年に一度行われている「理科」も実施されました。

②学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

子どもたちの生活や意欲に関する質問紙による調査です。日常生活習慣やゲームの時間と調査結果を見ることで学力と生活習慣の関係について今後の参考にすることができます。

3 本校の状況

<概況> *以下、常体で表記します。
本校の教科に関する調査の平均正答率は、「国語A・B」「算数A・B」「理科」において、全国及び県平均とほぼ同じかやや上回る結果であった。

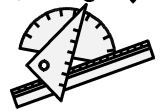
しかし、設問別には、A問題にも課題も見られることから、改めて漢字練習や計算など基礎的内容の反復練習は欠かせないことがわかる。

<教科別の状況> ◎総評 △課題

国語A「主として『知識』に関する問題」
◎全国平均正答率と比べてやや上回っている。
△「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使う」、「登場人物の心情について、情景描写を基にとらえる」の問題の正答率が低かった。

国語B「主として『活用』に関する問題」
◎全国平均正答率とほぼ同じになっている。
△「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える」「目的や意図に応じ、内容の中心

を明確にして、詳しく書く」問題の正答率が低かった。



算数A「主として『知識』に関する問題」

◎全国平均正答率と比べて上回っている。
△「除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している」「小数の除法の意味について理解している」「1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる」問題の正答率が全国平均よりやや低かった。

算数B「主として『活用』に関する問題」

◎全国平均正答率と比べてやや上回っている。
△「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる」「棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる」問題で正答率が全国平均よりやや低い。

理科

◎全国平均正答率と比べてやや下回っている。
△「人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる」「堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している」「より妥当な考えをつくり出すために、複数の情報を関連付けながら、分析して考察できる」「乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる」「太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる」「ものを水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして堆積が増えた食塩水に適用できる」問題で正答率が全国平均より下回っている。



4 教科における主な改善点

<国語に関して>

*漢字練習、漢字の構成、漢字辞典の活用、同音異字などの漢字学習を行う。また、ノートをとるときや学習感想を書くとき、連絡帳等に文や文章を書く際など、漢字を正しく使うと共に主語と述語の関係に注意して書くよう指導する。
*目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えたり、文の中心を明確にして詳しく書くことなどを丁寧に指導する。自分の考えを付け加えるといった主体的な聞き方を指導する。

<算数に関して>

*集めた資料を整理、分類して表やグラフに分かりやすく表したり、特徴を調べたりする活動やグラフどうしを関連づけて考えるといった表やグラフを活用する学習を充実させる。

- *問題の場面を図に表す、図に表したことを式にする、説明したことを図や式に表すといった、数量関係の説明を深める指導を充実させる。
- *様々な問題場面を数直線などを使って解く活動を行っていく。
- *式の意味を問う活動を取り入れる。

<理科に関して>

- *学習の中で、科学的な言葉や概念としての知識の習得を図っていく。
- *実験・観察の際に、複数の情報を関係付けながら分析・考察する活動を行っていく。
- *学習したことを他のことに置き換えたものの考え方ができるようにしていく。

■調査に参加した6年生には、一人ずつ個別懇談のうちに個人票をもとに具体的に課題等について説明する予定です。

5 質問紙調査の主な特徴

<学校生活>

- ・「将来の夢や目標を持っている」「先生はあなたのよいところを認めてくれている」「自分にはよいところがある」などは全国平均を上回っており、自己肯定感をもち、目標を持っている児童の様子がうかがえる。



<家庭学習>

- ・学校の宿題をする児童は9割強であるが、授業の予習・復習では4割弱の児童がしていると答えていて、全国平均より高い。
- ・学校の授業以外に、普段(月～金曜日)の1日あたりの勉強時間は、1時間以上が約6割で全国平均の時間よりやや下回っている結果となった。

<家庭生活>

- ・朝食を食べている児童は9割強で全国平均よりも高い。食べていないと答えた児童が約3%いるが、昨年度よりも低くなった。
- ・毎日同じ時刻に寝る、毎日同じ時刻に起きるも全国とほぼ同じか、やや高い結果で規則正しい生活をしていることがわかる。一方、不規則な生活をしている児童が1割程度いることも明らかになった。

<読書>

- ・普段(月～金曜日)の1日あたりの読書時間(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)は30分以上している児童は全国平均より高く、5割であった。一方、全くしないと答えた児童は全国同様に2割程度であった。
- ・放課後や週末に、家で勉強や読書をする児童が6～7割で、全国平均より高い。しかし、テレビやビデオ、DVDをみたり、ゲームやインターネットをしている児童は9割で、全国平均よりも高くなっている。
- ・新聞を毎日、または週に1～3回読んでいる児童を合わせると1割強あり、全国平均より1割程度低い。

一方、ほとんど、または、全く読まない児童は7割程度であり、図書館の利用も含め、活字離れの傾向を示している。学校のみならず家庭の協力を得ながら、読書に関する関心を高める必要がある。



6 質問紙調査からの改善点

- ・図書館利用や読書指導はこれまでも力を入れてきた。今後もさらに工夫を続けていきたい。さらに、新聞に興味・関心をもち、自分から進んで読もうとする取組を工夫する。
 - ・基本的な生活習慣については、おおむね良好であるが、改善を要する状況も少なからずあることから、家庭と連携してよりよい生活が送れるように取り組んでいきたい。
 - ・1時間以上家庭学習をしている児童は全国とほぼ同じであるが、テレビ・スマホなどの時間が多くなり読書の時間が短くなったことが推測される。さらに定着と推進を図りたい。
- ◎池田小で取り組んできた自主学習ノートなどの家庭学習を続け、宿題だけでなく、復習や予習などの家庭学習に工夫して取り組んで自分で学習をする習慣を大切にしたい。



7 今後の取組

<学校>

- ・全校体制として授業の目標や目当てを黒板に書き、子どもとのやりとりや話し合い活動など子どもたちが参加する授業を行い、授業の終末にはまとめを板書するなど、「見通し」と「振り返り」を意識した授業を行う。
- ・宿題、自主学習ノートなど、日々の授業の振り返りができるものを家庭と連携して取り組む。

- ◎校内研で取り組んでいる外国語活動の授業づくりをもとに、平成32年度から実施される新学習指導要領の趣旨を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいく。

また、一人一人の子どもに「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」を身に付けさせていきたい。

<ご家庭にお願いしたいこと>

池の子「家庭学習の4つのポイント」

- ①家庭での学習時間の目安
低学年・・・20分 中学年・・・40分
高学年・・・60分 が西中学区の目安
・毎日なるべく同じ時刻に始めましょう
- ②最初に宿題、次に自主学習ノートなど
- ③復習はその日のうちに
・教科書、ノートで振り返ろう
- ④時間があれば予習にも挑戦